

須賀川市立義務教育学校「稲田学園」令和3年度学園だより

とう 雲 稲 雲

第12号

令和3年10月27日発行

発行者：校長 小貴 崇高



○生徒一人一人がきらめく**秋華祭**、大成功！！

10月16日（土）、秋華祭を実施しました。残念ではありますが、今年度も新型コロナウイルス感染症対策のため、規模を縮小して7～9年生の生徒のみで実施し、保護者の方の来校も制限させていただきました。そんな中、生徒たちは限られた時間の中で仲間と協力し、一人何役もこなしながらすばらしい秋華祭を作りあげてくれました。

今年のテーマ「煌（きらめき）－ 思い出に光あれ－」のとおり、生徒がきらめく場面をたくさん見ることができた一日でした。



○おいしい**ドライトマト**はいかがですか（^o^）／

アフガニスタンにランドセルを送るプロジェクトを進めている6年生が、その資金となるよう自分たちで育てた無農薬トマトをドライトマトに加工し、商品を完成させました。

10月24日（日）午前10時から「すかがわ観光物産館 flatto（ふらっと）」での販売では、須賀川のお土産や名産品をめぐりに flatto を訪れた多くのお客様が、たくさんドライトマトを購入してくださいました。1袋が税込み324円ということで、おつりの計算や接客なども初めての経験でしたが、自分たちが目的をもって育てたトマトが、商品となって売ることができた喜びを味わうことができました。レシピ集も一緒に配りましたので、おいしく食べた方々のニーズが高まれば、ドライトマトが稲田の名物になる日も近いかもしれません。



○稲田学園伝統の松明(たいまつ)づくり

10月23日(土)に、9年生による松明づくりを実施しました。稲田中学校の時代から今年で19年目になります。残念ながら昨年も今年も新型コロナウイルス感染症の拡大を防ぐために、松明あかしに参加できない状況です。昨年は松明を作成しませんでした。今年も作成しなければ2年もの間、この大切な伝統が途切れてしまうという心配が出てきました。

そこで、松明づくり協力会・稲田公民館にご協力をお願いし、サイズは5分の1と小さめではありますが、2本の松明を作成して伝統をつないでいこうということになりました。「たが」という部品を作る作業などなかなか大変でしたが、9年生は元気に作業していました。完成した1本は稲田公民館にも展示する予定です。来年こそは松明あかしに参加したいです。



○新人大会でバドミントン部が東北大会へ!

10月23日(土)、白河市中心中央体育館で開催された福島県中学生新人バドミントン競技大会に参加した稲田学園バドミントン部は、女子団体でベスト4に入り、見事東北大会出場を決めました。東北大会は12月26日(日)~28日(火)に青森県弘前市にある青森県武道館で開催されます。稲田学園の活躍が期待されます。おめでとうございます!そして、がんばれバド部!!



○全国小・中学校作文コンクール県審査で最優秀賞受賞!

読売新聞社主催の「第71回全国小・中学校作文コンクール福島県審査が過日行われ、応募していた6年生・●●●●さんの作品『米を作る一祖父と父の米作り』が、見事「最優秀賞」を受賞しました。また、同じコンクールに応募していた6年生・○○○○さんの作品も「優秀賞」を受賞しました。6年生2人の入賞という快挙に、同級生のみんなも喜んでいました。

特に●●さんの作品は、全国審査へと進出し、11月中旬には結果が出るそうです。全国での入賞も期待されます。おめでとうございます!

★言葉と生きる(12)「『書く』は『考える手段』」

人に説明したり、何かを発表したりしなければならないときは、自分の考えを事前にかくことが多いと思います。私も学校でのあいさつは、ほとんど原稿を書く(実際はパソコンで打つ)ことにしています。そこで、自分の考えをまとめてみて、もし上手くまとめられなければ、それは、伝えたいことが明確でないということです。でも、がっかりする必要はありません。自分の理解や思考が足りていなかったわけですから、あとは足りていなかった部分について調べ、考え、深めていくことで自分の言いたいことを整理することができます。

先日、2年生の道徳の授業を参観しました。2年生の大部分が自分の考えをプリントの空欄にしっかり書いていました。そこには考えを深めた結果がしっかりと読み取れました。

